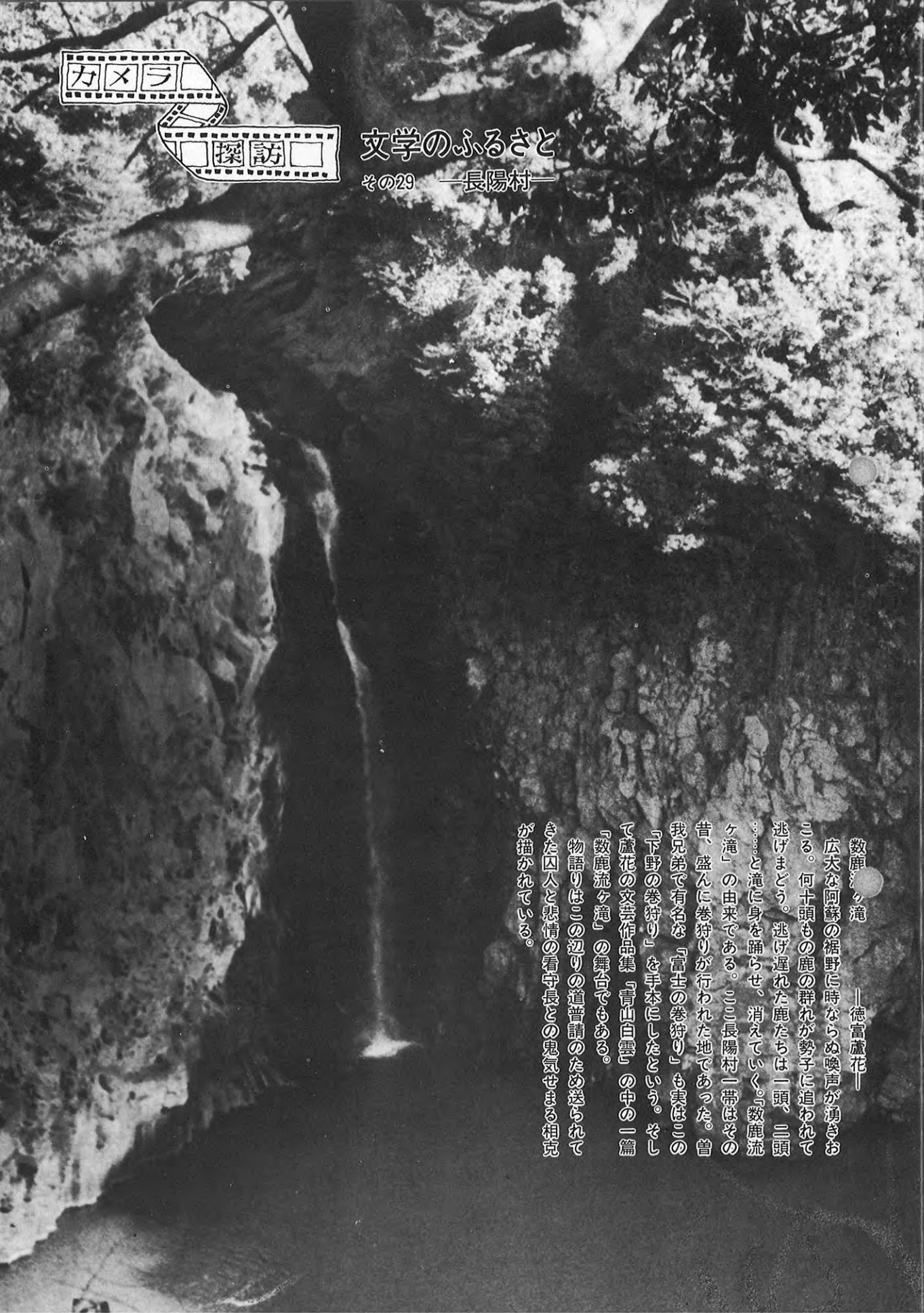


文学のふるさと

その29 長陽村



数鹿ヶ滝 — 徳富蘆花 —
 広大な阿蘇の裾野に時ならぬ喚声が湧きおこる。何十頭もの鹿の群れが勢子に追われて逃げまどう。逃げ遅れた鹿たちは一頭、二頭……と滝に身を躍らせ、消えていく。「数鹿流ヶ滝」の由来である。ここ長陽村一帯はその昔、盛んに巻狩りが行われた地であった。曾我兄弟で有名な「富士の巻狩り」も実はこの「下野の巻狩り」を手本にしたという。そして蘆花の文芸作品集「青山白雲」の中の一編「数鹿流ヶ滝」の舞台でもある。
 物語はこの辺りの道普請のため送られてきた囚人と悲情の看守長との鬼気せる相克が描かれている。

わたしの郷土

大津小学校六年

月尾 ゆくみ



住みよい町、大津

大津町は、熊本市から東に、およそ十八キロメートルの国道五七号線ぞいにあります。現在、人口は約二万人ですが、年々増加しつつある町です。その理由は、工場の進出が始まりです。神戸生糸・本田技研など十何社の工場が進出し、この工場に勤める人がくらすようになり、人口が増加してきました。

また、宅地が増えたこともその原因の一つです。吹田団地・あけぼの団地・幸里団地などに、大津町以外から多くの人が、移り住んでいるのがそうです。

また、阿蘇山や大分県への大切な道路である五七号線が、町の中を通っているので、車の量が増えてきました。それで町の中に二本、五七号線と大津と菊池間に、バイパスが出来ました。

大津町で行われる祭りは、十五夜のつな引き・つつじ祭り・地藏祭りなどがあります。

地藏祭りは子供の祭りで、各町内にお地藏さんをまつり、町行く人に声をかけ、お地藏さんに参ってもらいます。これは小学生が、最も楽しみにしている行事の一つです。つつじ祭りには、毎年六年生が鼓笛隊で出場し、町中をパレードします。また、つつじ祭りにちなんだレコードも出ています。

大津町では、今、中学の新築が進められています。大津町には、高校が二校・養護学校一校・中学校が二校・小学校が七校あり、運動や文化面の交流も行われています。

また、同和問題についてもいっしょうけん命で、「差別をなくそう」という運動がおし進められています。学校でも差別についての学習があり、話し合いや、意見発表会などとして、仲間づくりをすすめています。

私達の町・大津町は土地が広く、公害もなく、緑の多い住みよいきれいな町です。